

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒状況（技術情報第4号）について（送付）
近年、ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高くなっています。保毒状況
についての技術情報を取りまとめましたので、防除指導にご活用下さい。

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒状況（技術情報第4号）

1. ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒状況

平成16年5月に県内6ヶ所の休耕田や小麦圃場より採集したヒメトビウンカ324頭について、イネ縞葉枯ウイルス検定を行った。その結果、保毒虫率は8.3%であり、平年値0.8%より高く、平成9年以降の調査において最も高い値となった。また、調査した4ヶ所で保毒虫が認められ、県内の広い範囲に保毒虫が生息していると考えられる。

平成17年4月～6月5日までに、熊本県農業研究センター内（合志町）のネットトラップで捕獲されたヒメトビウンカ70頭についてイネ縞葉枯ウイルス検定を行った。その結果、保毒虫数2頭、保毒虫率2.9%であり、縞葉枯病の発生には十分注意が必要である。

表1 ヒメトビウンカにおけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率（平成16年）

採集地点	採集日	検定虫数	保毒虫数	保毒虫率
菊池市森北	5/21	65	5	7.7
岱明町鍋	5/14	11	0	0.0
御船町小坂	5/14	3	0	0.0
富合町守富	5/18	27	5	18.5
竜北町網道	5/19	200	16	8.0
あさぎり町上村	5/17	18	1	5.6
合計		324	27	8.3

1 検定は高比重ラテックス凝集反応法で行った。

表2 ヒメトビウンカにおけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

調査年	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	平年	H16
保毒虫率(%)	0.8	0.4	0.4	1.1	0.4	-	1.6	0.8	8.3

1 H14は調査を行っていない。

2. 防除対策

- 1) 今後、移植を行う圃場では、媒介虫であるヒメトビウンカやウンカ類に登録のある育苗箱施用剤を使用する。
- 2) 発病株を認めたら抜き取る。
- 3) 窒素過多で発生が増加しやすいため、適正な肥培管理を行う。